「Who is Bad」

（前編）

―初稿―

2024/12/10

米俵

〈人物表〉

佐伯　美波　（２１）　大学生
新木　くるみ　（２１）　大学生
大橋　凌　（２４）　会社員

〈ログライン〉

（前編）・深い嫉妬心を隠しながら、くるみの彼（凌）の浮気相手を続けている美波は、凌にフラれたくるみを慰めるが、凌と連絡を取っていたことがバレそうになる話
（後編）・〈考え中〉
（全話）・美波は、くるみから彼を奪うが、一年後にくるみに刺される話

〈ねらい〉

・二面性を書く

1.

カフェ・店内（夜）

都内のカフェ。混みあっている店内。
窓からはイルミネーションが見える。
佐伯美波（２１）と新木くるみ（２１）、向かい合ってテーブル席に座っている。くるみは派手めのワンピース、美波は落ち着いたパンツファッション。

くるみ「でね、凌ちゃんがお詫びって、これ買ってくれた」
と、有名ブランドのブレスレットを見せる。
美波、笑顔で、

美波　「良かったね、くるみ」
くるみ「本当、最高の彼氏」
と、嬉しそうにブレスレットを触る。
美波、カフェラテを混ぜながら、

美波　「でも、やり過ぎは気を付けた方がいいと思うよ」
くるみ「えー、どういう意味？」
美波　「包丁出すって、いき過ぎじゃない？」
くるみ、少しムッとして、

くるみ「なんで、向こうが悪いじゃん。どうしたの急に」
美波　「……別に」
くるみ、納得がいかないといった表情。
美波、くるみを見て、

美波　「まぁ、彼が受け入れてくれてるならいいか」
くるみ「でしょ？　来週、凌ちゃん家に挨拶も行くし」
美波　「実家ってこと？」
くるみ「そう。鹿児島」
美波　「遠いね」
くるみ「いいの。指輪も買ってもらう」
と、嬉しそうにする。

美波　「指輪？」
くるみ、わざとらしく、

くるみ「あっ、これ秘密だった」
美波　「なにそれ」
くるみ「凌ちゃんが、まだ誰にも言わないでおこうって」
美波　「婚約ってこと？」

くるみ、嬉しそうに、
くるみ「そうなるのかなー」
美波　「……」
くるみ、勝ち誇ったような笑顔。

2.

美波の家・玄関（夜）

すっきりと片づけられた玄関。
鍵を開ける音。美波が入ってくる。
センサーで電気がつく。
美波、男物の靴があるのを確認する。

3.

美波の家・室内（夜）

シンプルなインテリア。
大橋凌（２４）、ベッドに寄りかかり、携帯をいじっている。
美波が部屋に入ってくる。
美波　「凌、来るなら言ってよ」
凌　「俺、出入り自由じゃないの？」
と、鍵を振ってみせる。
美波　「勝手に取ったくせに」
凌　「取り返さないくせに」
美波、溜息をつく。
凌　「なに？　今日、機嫌悪い？」
凌、隣に座れという合図をする。
隣に座る美波。
凌、美波の肩を抱き寄せて、
凌　「何かあった？」
美波、凌の顔をジッと見てから、
美波　「親に紹介して、指輪もあげるんでしょ？」
凌　「は？」
美波　「今日、聞いた」
凌　「あいつ……」
美波、凌から体を離して、
美波　「良かったね。おめでとう」

凌　「いやいやいや、美波も知ってんじゃん。あいつのメンヘラ」
美波　「言わされた？」
凌　「あいつ、本気で刺す目してたんだって」
　大袈裟な声を出す。
凌　「まじ、こえーんだよ」
　と、美波に甘える。
　凌の頭を撫でる美波。
凌　「やっぱ、美波のが落ち着くわ」
　美波、何も言わず、笑顔で返す。
　凌、調光し、美波の首筋にキスする。
　美波、されるがまま。
　薄暗い中、凌の携帯が光る。
　美波、殺気立った形相で凌の携帯を見つめる。

4.

大学・カフェテリア（昼）

　数日後。
　美波、一人で座っている。
　くるみから、個人チャットが届く。
　「買ってもらった」の文字と一緒に、ブレスレットと同じブランドの指輪の写真が送られてくる。
　美波、悔しそうに爪を噛む。

5.

居酒屋・店内（夜）

　大衆居酒屋。騒がしい店内。
　美波、友人数人と食事をしている。
　美波の携帯に着信が入る。
　店外へ出るため、移動しながら電話に出る。
美波　「もしもし」
くるみの声「美波？」
美波　「どうした？」
くるみの声「（泣き声）凌ちゃんに……れた」
美波　「え？」
　周りの声にくるみの声がかき消される。

美波　「ちょっと待って」
美波、外へ出る。
美波「ごめん、周りが五月蠅くて」
くるみの声「凌ちゃんにフラれた」
電話口から激しい嗚咽が聞こえる。
美波　「え……どういうこと？」
くるみの声「美波、今から家来れる？」
美波、友人たちの方を気にするように見てから、
美波　「……分かった」

6.

くるみの家・室内（夜）

可愛らしいインテリアの中に、高級ブランドのバッグがいくつも置かれている。
くるみ、泣いている。その隣に座っている美波。
くるみの指には指輪がはめられている。
くるみ「昨日、凌ちゃんが先に鹿児島に行って……明日、私が行く予定だったの」
美波、何も言わず頷く。
くるみ「そうしたら、今日電話かかって来て……」
言葉につまる。
美波　「ゆっくりでいいよ」
くるみ「来なくていいって……」
美波　「急に？」
くるみ「もう、別れるから来るなって」
くるみ、号泣する。
美波　「なんで？」
くるみ「分かんない……そのあと、何回電話しても繋がらない」
美波　「……」
くるみ「どうしたら、いいの？」
涙でぐしゃぐしゃになった顔で美波を見つめる。
美波、困ったような表情。
美波　「連絡は……やめた方がいいかも」
くるみ「なんで？　こんな何も分からない状態つらい」
美波　「……」

くるみ「ねえ、美波が電話してみてくれない？」
美波　「えっ」
くるみ「お願い」
美波　「番号知らな――」
　　くるみ、美波の腕を掴んで、
くるみ「教えるから。凌ちゃんも知らない番号なら、出てくれるかも」
美波　「くるみ、ちょっと待って。落ち着こ」
くるみ「なんで？　１回かけるだけでいいよ」
美波　「向こうが警戒してたら、出ないんじゃないかな……」
　　くるみ、パニックになったように、
くるみ「１回だけっていってるじゃん」
　　驚く美波。
くるみ「お願い。凌ちゃんと話したいの」
　　美波、少し考えて、
美波　「……分かった」
　　くるみ、すぐに携帯を確認して、
くるみ「０８０……」
　　と、番号を読み上げる。
　　美波、ゆっくりと番号を押す。
　　通話を押した瞬間に大橋凌という名前が表示される。
　　表示を隠すようにすぐに耳にあてる。
　　コール音が聞こえる。
くるみ「スピーカーにして」
　　美波、言われた通りに操作する。
　　部屋に響くコール音。
　　長いコール音のあと、留守番電話の音声が流れる。
　　美波、大きく息を吐き出す。
美波　「出ないね……」
　　くるみ、再び泣き出す。

（つづく）